

公開シンポジウム「オノマトペの魅力と不思議」

1. 日程

日 時：平成 29 年 1 月 21 日（土）

場 所：一橋大学一橋講堂（千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター2 階）

主 催：国立国語研究所、言語系学会連合

2. 概要

日本語は「ゲラゲラ笑う」「メソメソ泣く」のように、オノマトペ（擬音語、擬態語）をととても好む言語だと言われています。「ガラガラ」（赤ちゃんのおもちゃ）を筆頭に、「ガチャポン」や「ガリガリ君」（商品名）、「ピカチュウ」や「ヒコニャン」（キャラクター名）、「ペンペン草」「ミンミンゼミ」「ガラガラヘビ」（動植物名）等々、オノマトペに由来している語がたくさんあります。子供の童謡にも「ワンワン」や「ニャンニャン」などのオノマトペが不可欠です。

その一方で、謎が多いのもオノマトペの特徴です。そもそも日本語にオノマトペが多いのはなぜでしょう。その意味や役割は昔から変わらなかったのでしょうか。またオノマトペは私たちが言葉を身につけるのにどのような役割を果たしているのでしょうか。大人のコミュニケーションではどのような役割を果たしているのでしょうか。日本語以外の言語にもオノマトペはあるのでしょうか。また、外国人が日本語を学ぶ際に日本語のオノマトペはどのような障壁となるのでしょうか。

このフォーラムでは、このような疑問をもとにオノマトペをさまざまな観点から考察し、日本語を豊かにしていると言われていたオノマトペの魅力と謎に迫ります。

3. 申込み方法

入場無料、事前申込制。定員 400 名（先着順。定員になり次第、受付を締め切ります）。国立国語研究所ホームページ（<http://www.ninjal.ac.jp/event/public/forum>）からお申し込みください。なお、Eメール（forum@ninjal.ac.jp）もしくはファクシミリ（042-540-4334）でも申込みいただけます。

4. プログラム

- | | | |
|-------|----------------------|-------------------------------------|
| 13:00 | 開会挨拶 | 影山太郎（国立国語研究所長） |
| | 趣旨説明 | 窪菌晴夫（国立国語研究所副所長） |
| 13:15 | 報 告 1 | オノマトペはことばの発達に役立つか？
今井むつみ（慶應義塾大学） |
| | 報 告 2 | 外国語にもオノマトペはあるか？
秋田喜美（名古屋大学） |
| | 報 告 3 | 外国人は日本語のオノマトペを使えるか？
岩崎典子（ロンドン大学） |
| 14:45 | （休憩） | |
| 15:00 | 報 告 4 | オノマトペの意味は変化するか？
小野正弘（明治大学） |
| | 報 告 5 | 「もふもふ」はどうやって生まれたか？
坂本真樹（電気通信大学） |
| 16:00 | （パネルディスカッション） | |
| | コーディネーター：窪菌 | |
| | パネリスト：今井、秋田、岩崎、小野、坂本 | |
| 16:50 | 閉会 | |